

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2015年2週 (1月2週 1/5~1/11)

2014年12月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

インフルエンザ、感染性胃腸炎、集団かぜの発生、感染症法の一部改正について
 定点医療機関コメント
 インフルエンザ、感染性胃腸炎、溶血性レンサ球菌感染症、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱等
 全数把握感染症発生状況 ()内は件数。
 結核(23)、デング熱(2)、レジオネラ症(4)、

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)、急性脳炎(1)、クロイツフェルト・ヤコブ病(1)、侵襲性肺炎球菌感染症(10)、水痘(入院例に限る。)(1)、梅毒(3)
 2014年12月報
 定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

インフルエンザ(図1) 【1月6日警報発令】

2週目の定点当たり報告数は44.27、1週目5,953人、2週目8,632人(1.45倍)です。2014/2015シーズンに病原体定点等から寄せられた検体よりA型(AH3)インフルエンザウイルスが検出されています。

【参考ページ】

2014/15シーズンインフルエンザウイルス分離・検出情報

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri14_15.html

「インフルエンザ警報」を発令します!(1月6日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000079188.html>

豊橋市: インフルエンザの流行状況(1月14日更新)

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/6893.htm>

名古屋市: 名古屋市内でインフルエンザ患者の報告数が急増しています!(1月9日更新)

<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000055797.html>

岡崎市: インフルエンザ情報ポータルサイト(1月7日更新)

<http://www.city.okazaki.aichi.jp/1100/1107/1146/p015463.html>

豊田市: インフルエンザ警報を発令します!(1月6日発表)

http://www.city.toyota.aichi.jp/pressrelease/1275411_7011.html

保健所別・定点医療機関当たりのインフルエンザ報告数マップ

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/influ_map_new.html

インフルエンザ情報ポータルサイト(愛知県)

<http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/influ/index.html>

感染性胃腸炎(図2)

2週目の定点当たり報告数は8.95、1週目433人、2週目1,628人です。

【参考ページ】

ノロウイルス感染症と嘔吐下痢症の集団発生

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/nlv.html>

集団かぜの発生(健康対策課発表)

発表日	管轄保健所	ネットあいち URL
1月13日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、江南、知多、清須、衣浦東部	集団かぜの発生について(2014-2015シーズン) http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/influ/syuudankaze2.html http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/influ/ichiran.pdf
1月14日	一宮、瀬戸、半田、春日井、豊川、津島、西尾、江南、知多、清須、衣浦東部	

感染症法(「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」)の一部改正について改正の概要は下表のとおりです。平成27年1月21日から変更されます。

対象感染症	改正点
中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	指定感染症から二類感染症へ変更
鳥インフルエンザ(H7N9)	

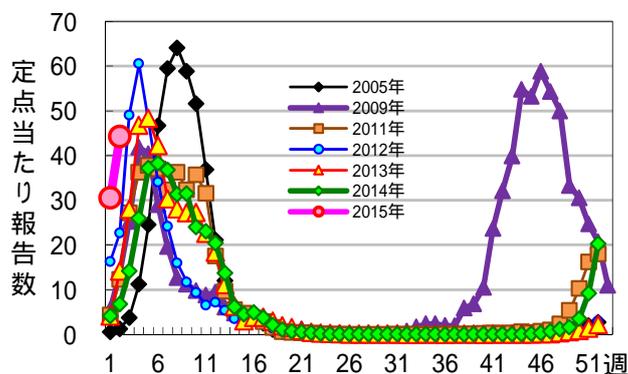


図1 インフルエンザ

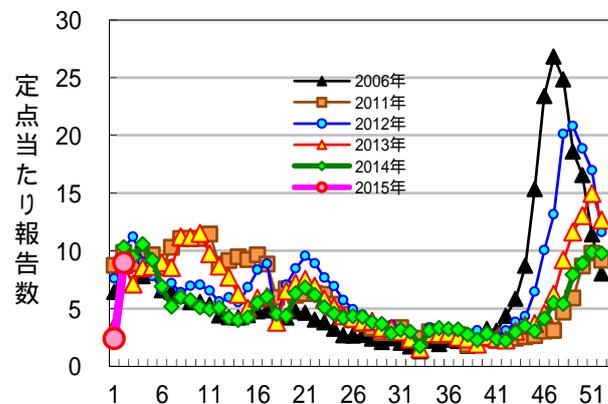


図2 感染性胃腸炎

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

- インフルエンザ、溶連菌感染症多いです。
(インフルエンザはすべてA型)
RSウイルス感染症 検査した分だけで4例
【一宮市 あさのこどもクリニック】
RSウイルス感染症 1歳男
インフルエンザ 15名 全員A型
【一宮市 後藤小児科医院】
インフルエンザA型 14名
【稲沢市 愛知県厚生農業協同組合連合会稲沢厚生病院】
インフルエンザA型 5名
【稲沢市 野村小児科】
インフルエンザA型 25名に急増
感染性胃腸炎も増加
【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】
インフルエンザA型 62名、B型 1名 でした。20~40代の大人での流行が目立ちます。
【犬山市 武内医院】
インフルエンザA型 23例
RS感染症、溶連菌 散発
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
インフルエンザ増加しています。
26名(すべてA型)
感染性胃腸炎も流行続いています。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
A型インフルエンザ 53名と流行しています。
感染性胃腸炎が29名と急増しました。
【北名古屋市 田中クリニック】
インフルエンザ 35名 全てA型です。
【清須市 丹羽医院】
インフルエンザA型 38名
【津島市 医療法人参育会加藤医院】
インフルエンザ すべてA型です。
【弥富市 医療法人すずきこどもクリニック】

尾張東部地区

- インフルエンザA型 12名
B型1名は中国からの帰国者でした。
その他溶連菌感染症流行持続
マイコプラズマ感染症散見されます。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
インフルエンザA型 15名
【長久手市 医療法人水野内科】
インフルエンザA型 56名
ノロ 1名
【豊明市 こども元気クリニック】
インフル多数 全例A
胃腸炎も目立ちます。
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
インフルエンザが増加
感染性胃腸炎、溶連菌感染も多く、インフル
エンザと溶連菌感染の重複感染例が3例ありま
した。
【小牧市 志水こどもクリニック】
インフルエンザA型 男6名、女10名
感染性胃腸炎が多くなってきています。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
インフルエンザA型が多発しています。
【春日井市 春日井市民病院】
インフルエンザ流行中 166名
成人130名 小児36名
すべてA型です。
【小牧市 小牧市民病院】
インフルエンザA 38名
【半田市 医療法人林医院】
インフルエンザA型 43名
【南知多町 医療法人大岩医院】
インフルエンザ 全員A型です。
感冒腸かぜもやや目立ちました。
アデノウイルス感染症 1名(1歳)
【東海市 もしもしこどもクリニック】
インフルエンザA型 20名
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザA(+) 16名

StrepA(+) 5名

RSV(+) 3名

アデノ(+) 2名

E.coli(O25) 14歳女

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

マイコプラズマ 20歳以上男

【豊田市 わかぞの東洋クリニック】

インフルエンザA型 26名

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

インフルエンザA型 46名

インフルエンザB型 1名

【豊田市 愛知県厚生農業協同組合連合会足助病院】

アデノ(咽) 5歳男

インフルエンザ 61例 全例A型

【岡崎市 花田こどもクリニック】

インフルエンザA型 23名

【岡崎市 医療法人永坂内科医院】

39歳女 病原大腸菌O119

インフルエンザA型 76名 B型 1名

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルA 22例

インフルB 1例

アデノ(+) 2歳女

【岡崎市 にいのみ小児科】

感染性腸炎多いです。

インフルエンザウイルス感染症急増しています。全てA型です。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

インフルエンザ合計57名：全てA型

今年は例年に比べ、成人が多いようです。

【岡崎市 粟屋医院】

インフルエンザ 全てA型

【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】

A型インフルエンザ流行(全てA型)

ノロウイルス腸炎も目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザはすべてFluA(+)

【刈谷市 田和小児科医院】

インフルエンザA 43例

【知立市 宮谷クリニック】

インフルエンザA型 90名

【西尾市 西尾市民病院】

インフルエンザ急増(全てA型 45人)

【西尾市 山岸クリニック】

東三河地区

インフルエンザ A型185名 B型1名、
合計186名(1歳から91歳まで全年齢層に分布、
15歳以上が138名、B型1名は3歳男)

【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

インフルエンザA型 41名

【豊橋市 おだかの医院】

インフルエンザA型 56名 B型 1名でした。

【豊橋市 医療法人山本内科】

インフルエンザA型 63名(15歳未満が5名、
20~59歳が45名で最多でした。)

【豊橋市 医療法人杉浦内科】

インフルエンザA型 流行中

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

インフルA型 54名

【豊川市 ささき小児科】

インフルエンザA型 121名

【豊川市 豊川市民病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2015年1月14日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun140919.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2015年2週報告数			2015年総計(1～2週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	8	2	4	9	3	4
豊田市						
豊橋市	3	2	1	3	2	1
岡崎市						
一宮	1			1		
瀬戸	3		1	4		1
半田						
春日井						
豊川	1			1		
津島						
西尾	3	1		3	1	
江南	1			1		
新城						
知多	1			1		
清須						
衣浦東部	2		2	3	1	2
合計	23	5	8	26	7	8

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	豊橋市	43歳	男	デング熱	フィリピン
2	知多	70歳	男	デング熱	インドネシア

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	豊田市	77歳	男	肺炎型	国内
2	豊田市	91歳	女	肺炎型	国内
3	一宮	65歳	男	肺炎型	国内
4	春日井	51歳	男	肺炎型	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	名古屋市	55歳	男	院内感染	国内	無
2	衣浦東部	58歳	男	医療器具関連感染	国内	無

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	12歳	女	インフルエンザウイルスA	国内

クロイツフェルト・ヤコブ病（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型
1	一宮	82歳	男	古典型

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	87歳	女	不明	国内
2	名古屋市	89歳	女	無	国内
3	名古屋市	45歳	男	無	国内
4	名古屋市	0歳	女	有	国内
5	一宮	57歳	女	無	国内
6	瀬戸	38歳	女	不明	国内
7	瀬戸	62歳	男	無	国内
8	瀬戸	38歳	女	無	国内
9	春日井	66歳	女	無	国内
10	衣浦東部	76歳	女	無	国内

水痘（入院例に限る。）（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	77歳	男	不明	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	43歳	男	早期顕症	性的接触	国内
2	名古屋市	66歳	男	無症候	性的接触	国内
3	名古屋市	31歳	男	早期顕症	性的接触	国内

12月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔()は無症状病原体保有者再掲。〕

2013～2014年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数	2014年12月			2014年	2013年
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
二類 (5) 結核	70 (20)	56 (15)	125 (35)	1,866 (531)	1,915 (468)
三類 (5) コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)
細菌性赤痢	0 (0)	2 (0)	2 (0)	10 (0)	16 (2)
腸管出血性大腸菌感染症	6 (1)	1 (1)	7 (2)	132 (30)	211 (58)
腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)
四類 (43) E型肝炎	0	0	0	1	2
A型肝炎	0	0	0	8	4
チクングニア熱	0	0	0	0	1
つつが虫病	1	0	1	1	4
デング熱	0	2	2	11	14
マラリア	0	0	0	1	8
レジオネラ症	6	2	8	61	64
五類 (18) アメーバ赤痢	0	1	1	68	62
ウイルス性肝炎	1	0	1	13	16
内訳 B型	1	0	1	12	7
内訳 その他	0	0	0	1	9
カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症*	3	5	8	19	-
急性脳炎	0	0	0	17	25
クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	1	11	10
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2	0	2	18	8
後天性免疫不全症候群	1	2	3	98	99
内訳 無症候性キャリア	0	2	2	66	64
内訳 AIDS	1	0	1	31	33
内訳 その他	0	0	0	1	2
ジアルジア症	0	0	0	2	2
侵襲性インフルエンザ菌感染症**	4	0	4	16	13
侵襲性髄膜炎菌感染症**	0	0	0	2	0
侵襲性肺炎球菌感染症**	10	4	14	122	76
水痘(入院例に限る。)*	1	0	1	10	-
先天性風しん症候群	0	0	0	0	2
梅毒	2	4	6	110	54
内訳 無症候	0	2	2	50	25
内訳 早期顕症	2	2	4	54	24
内訳 晩期顕症	0	0	0	6	5
播種性クリプトコックス症*	0	2	2	2	-
破傷風	1	0	1	4	5
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	1	6
風しん	0	0	0	21	375
麻しん	0	0	0	46	25
総計	108	82	189	2,675	3,022

* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。

** 2013年4月1日から、五類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患()を除く細菌性髄膜炎については引続き基幹定点把握対象疾患です。同じく五類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2014年12月			2014年 累計		2013年 総計	
		愛知県	名古屋市	愛知県 全体	愛知県全体	愛知県全体		
		<名古屋市除く>			合計	合計		
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	男	31	32	63	900	960	1,688
		女	30	16	46	691	728	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	7	6	13	169	235	685
		女	27	16	43	474	450	
	尖圭コンジローマ	男	7	7	14	220	226	379
		女	3	2	5	127	153	
淋菌感染症	男	15	18	33	577	620	707	
	女	4	2	6	80	87		
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		59	8	67	1,089	1,212	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		9	0	9	59	84	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	4	9	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-	0	0	

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2014年12月			2014年 累計	2013年 総計
	愛知県	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	1	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2014年9月19日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症* (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症** (2疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

* 2014年9月19日に「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。
 **2013年5月6日に指定感染症に定められた「鳥インフルエンザ(H7N9)」は、指定感染症としての指定期間が1年間延長されました。2014年7月26日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」が指定感染症に追加されました。

